

令和3年産米の胴割粒発生状況

山形県農業総合研究センター土地利用型作物部

研究のねらい

出穂後の気温が高くなると、米の品質を低下させる胴割粒の発生が増えることが知られている。令和3年は出穂後の気温が高温で経過し、胴割粒の発生が懸念されたため、出穂後の気象経過と胴割粒の発生状況との関係をより詳細に調べ、今後の生産技術対策の参考にする。

研究の成果

- ① 令和3年は、7月下旬から8月1半旬に出穂した水稻の出穂後10日間の日最高気温平均値が30℃以上となり、胴割粒が発生しやすい気象条件だった（図1、2）。
- ② 出穂後10日間の日最高気温平均値が高いと胴割粒が増加する（図3）。
- ③ 穂揃期から穂揃期20日後頃の葉色の低下程度が大きいと胴割粒が増加する（データ省略）。
- ④ 刈取りが遅れた場合、外気の乾燥と湿潤の繰り返りで胴割粒の発生が助長される（図4）。

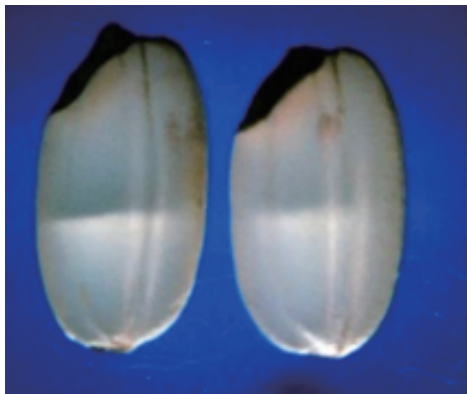


図1 胴割粒の外観

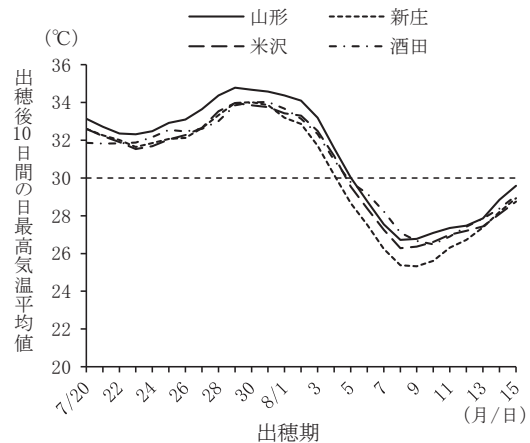


図2 出穂後10日間の日最高気温平均値
注)アメダス地点の観測値

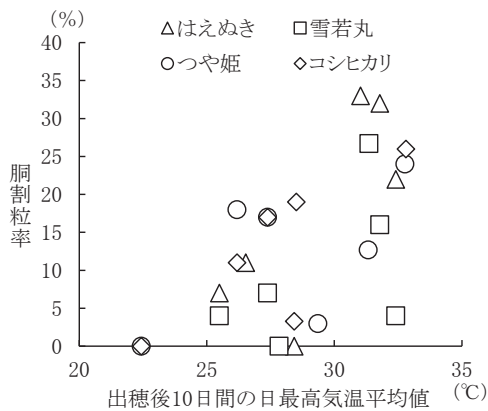


図3 出穂後10日間の日最高気温平均値と胴割粒率との関係

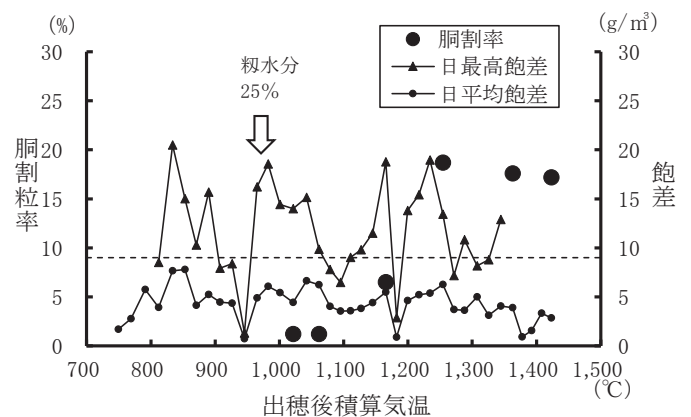


図4 登熟中期以降の飽差及び胴割粒の発生推移
注)飽差:空気中の乾きやすさの指標、品種:「つや姫」

問い合わせ先：土地利用型作物部 TEL:023-647-3500 e-mail:ynokense@pref.yamagata.jp